

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2771300288		
法人名	社会医療法人 慈薫会 河崎病院		
事業所名	グループホームひまわり「河崎」		
所在地	大阪府貝塚市水間183番地		
自己評価作成日	平成 24年 3月 30日	評価結果市町村受理日	平成 24年 5月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771300288&amp;SCD=320&amp;PCD=27">http://www.kaikokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771300288&amp;SCD=320&amp;PCD=27</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 4月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく広いリビングの窓から、四季折々の風景を眺める事ができ、なごめる。併設の病院も駅に近く至便。リハビリ棟もホームの1階にあり、送迎時、外来通院の方と顔なじみになり、話もできる。法人の病院が近いので、緊急連絡体制もあり、利用者・家族も安心されている。職員の教育システムが整備されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に長年貢献する社会医療法人が設立したグループホームです。広いスペースのリビング・ダイニングルームがあり、陽あたりのよいリビングで利用者はくつろいでいます。大きな窓越しには山々や家並みが見え、四季を感じることが出来ます。病院に隣接しているため、普段から医療サービスを受けられることで、家族の信頼と安心感は大いものがあります。管理者が、「皆よくやってくれています。頑張ってくれています。」と職員を評価し、信頼していることが、職員の士気を高め、創造性を発揮できる職場環境です。今後も積極的にサービス向上に挑戦していこうと取り組んでいます。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意義や役割を十分理解し、理念に基づいて実践している。	設立当時からの理念である「利用者さまに、家庭的な環境と、安心と尊厳のある生活を送っていただくため、利用者みなさまの残された能力の活用・維持を図り、楽しく・充実した生活が営まれるよう努力します」に基づき、毎年方針を決めています。今年は、「残された能力を活かそう」を掲げ、その人らしく暮らせる生活を支援しています。今後は、グループホームの原点に戻り、目標を皆で考えていく予定です。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の季節の行事に参加するように努めている。 ボランティアの方々にも定期的に来ていただいている	地域の季節の行事に参加しています。地域の行事に参加した際は、地域の方が見守りの協力をしてくれることもあります。お話や日舞等のボランティアの来訪もあります。近隣の特養でのイベントには、家族と一緒に参加しています。認知症介護実践者研修の実習も受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。	活かしていると言えない為、今後、民生委員の方と協力して、地域の方にも理解していただき、勉強会など開催できるようにしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のサービス状況を報告、話し合いと相談をしている。 市職員、民生委員の方や家族の意見を伝達し、ケアの実際に活かすようにしている。	運営推進会議は、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、家族、利用者の参加を得て、利用者の暮らしが見えるリビングで開催しています。運営推進会議の規程を作り、2カ月に1回開催しています。地域の情報を教えてもらう良い機会になっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、高齢課の窓口での相談や、また電話で相談している。	市の高齢介護課や地域包括支援センターの担当者とは、何かあったら連絡・相談できる関係を築いています。事故報告や外部評価結果の報告も実施しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解して業務している。	身体拘束や高齢者虐待についての研修を実施しています。身体拘束をしないために、「利用者をよく見よう」と管理者は職員に教えています。また、尊厳を傷つけない言葉についても心がけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に注意・観察をおこない、発見と防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修とその伝達を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり、丁寧に説明している。 質問あれば納得できるまで説明する。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦情受付簿、ご意見箱を設置</li> <li>・家族の面会時など、機会をみつけてお話しして、コミュニケーションを十分とれる努力をしている。</li> <li>・利用者の気持ちを聴きスタッフ間で話し合っている。</li> </ul>	家族の面会は多く、面会時には必ず利用者の様子を伝えていきます。利用料の請求の際に、日頃の様子を伝えるお便りを同封することもあります。今後は、担当職員からのお便りを出す計画です。	家族との連携についての取り組みは、積極的に実施しています。今後は、グループホーム通信を発行するなど、さらに連携が図れるような取り組みが期待されます。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からショートミーティングで互いの意見を交換している。	管理者は、職員が「気持ちよく、楽しく、元気に働ける職場づくり」を心掛けており、職員のやる気が発揮できるように支援しています。毎年、職員の自己評価を実施しており、今後は自己評価を使って、職員の意欲の向上や質の向上に活かしていく予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に対応して、向上心が持てるように、条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修・内部研修に積極的に参加できるように法人が支援している。 ・勤務体制も配慮している。 ・内部研修で伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会とグループホーム協議会研修や相互研修で交流できる機会が増えている。 他施設を参考にして、サービスの向上につなげている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の状態観察をおこないながら、コミュニケーションを十分取り、信頼感、安心できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や問い合わせの時など、インテークを大切に心がけている。 コミュニケーションを十分取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から話・状況を十分聞き、必要とされている事を見極めて、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しているということを念頭におき、出来る事を見守りながら、職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・催し事などは早めに情報提供する。 ・その機会にできる限り参加し、一緒に過ごしていただくように説明している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・訪問を受け入れている。 ・家族、姉妹にお願いして、協力いただき支援している。	家族の協力を得て、自宅を見に行くこともあります。また家族が自宅の庭に咲いている花を摘んできて、みんなで一緒に観賞する等、楽しんでます。 近所の方が訪問してくれたり、リハビリや病院での受診時、近所の人との出合いが楽しみな利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフと共に見守り・援助を通じて互いに支えあうことの大切さを感じ支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用者、家族に電話をかけ、その後の様子を聴いている。 ・退所後も訪問を受け入れ、病院受診の時、本人に会い、相談を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ち、思いを聴き、意向に添えるよう努力している。	利用者一人ひとりと日常的な支援やコミュニケーションをとる中で、その人の気持ちを察してケアに活かしていません。家族との会話の中で聞いた、本人や家族の希望や思いをアセスメントに活かしています。	日常的な支援の中で気づいたことや発見を記録に残し、よりその人らしい暮らしの支援に活かされることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報をもとにしているが、日々の関わりの中で本人・家族からの情報を積み重ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の援助、及び日々の観察とコミュニケーションで把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人または、家族と話し合い、ケアカンファレンスで情報交換し、介護計画を作成している。</p>	<p>ケアカンファレンスやミニミーティングの時間を利用して、情報交換やケアの成果を話し合い、介護計画に反映させています。3ヵ月毎に見直しをしています。変化のある時は随時見直しを行います、状況に応じた介護計画を作成しています。</p>	<p>支援の成果により、利用者の状況が改善された事例がありました。評価をサービス担当者会議の中で共有し、次の介護計画に繋げられることが期待されます。また、職員の士気の向上にもつながるよう、実施された成果を言葉で伝えるだけでなく、会議録に残されてはいかがでしょうか。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録、夜勤者からの情報提供など、気づきは申し送り時に伝えている。ショートミーティングとカンファレンスでの意見交換、見直しする。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その時の状況に応じ、支援できるようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアや民生委員の方々に来ていただき、生活に変化をつけ楽しみを感じられるよう支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供している。</li> <li>・病院に併設の利点と連携を活かし、初診の場合は家族と共に付添い、希望を聞いている。</li> </ul>	<p>入居の際に、受診状況を聞き取り、利用者・家族の希望を尊重した支援を行っています。これまでかかりつけの医療機関に受診することも可能です。併設の病院へは定期的に受診しています。夜間の緊急時には、併設病院の看護師に連絡し、協力が得られるようなシステムになっています。</p>	
31		<p><b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師の配置有。</li> <li>・気づき、異常の早期発見など介護職からも看護師に報告あり、相互で相談して支援している。</li> </ul>		
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>担当医、病院の看護師、ケースワーカー、栄養科、リハビリ等と日頃より連携をとり、情報交換をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の面会時に話し合う。</li> <li>・必要時は医師の診察時に、家族と一緒に病状説明を聴いて、相談を受けようとしている。</li> </ul>	看取りに関する指針を作成し、家族に説明した上で同意を得ています。看取りケアは実施する方針で、受け入れにあたっての整備をしていく計画です。	看護師として看取りの経験を持つ管理者の指導で、看取りについての学習、介護技術の研修を重ね、看取りケアが実現できることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルで各自学習する。</li> <li>・法人の病院内の研修会に参加し、実技訓練など行っている。</li> </ul>		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・併設の病院との緊急連絡体制を整備している。</li> <li>・避難訓練やビデオでの内部研修をしている。</li> </ul>	災害時の避難訓練を実施しており、併設病院と協同で消防署の指導の下、避難訓練にも参加しています。夜間を想定しての訓練も実施しました。東日本大震災をきっかけに災害時の備蓄も用意しました。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より個人情報や、尊厳に留意して接している。	「その人の嫌と思うことはしない」という考えで、利用者の尊厳に配慮したケアを心掛けています。個人情報の保護にも留意しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・その人にあわせて、わかりやすい表現(ことば)で伝える。 ・個々によく聞こえるよう、耳元で説明し、自己決定できるように支援。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活リズムで、のんびりと過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じたの服装を支援。 催し事や外出時は一緒に考えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の利用者が、出来ることを見つけて見守りながら支援をしている。	ご飯、汁物はホームで作ります。副菜は併設病院で作ったものを運んでいます。手作りおやつを利用者と一緒に作り楽しむこともあります。食事を楽しむ雰囲気を心がけ、一人ひとりのペースに合わせた介助を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者の状況に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食後と寝る前の歯磨きや、うがいを声かけ、見守りで実施。清潔にして感染予防に努めている。</li> <li>・必要時歯科の往診をうける。</li> </ul>		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声かけと定時の誘導など、一人一人の排泄パターンを把握して援助。</li> <li>・プライバシーに配慮しながら、トイレで排泄ができるよう習慣づけ、支援している。</li> </ul>	入居時、オムツ使用の利用者の排泄パターンを把握し、トイレに誘導することで、布パンツとパッドに自立されたケースがあります。冬の寒い時期は、利用者が不安に感じるため、オムツを使用する方もいますが、暖くなればオムツを外して支援する予定です。利用者には「失敗しても大丈夫だから」と励ましています。失禁や排便が間に合わなかった時は、シャワーをして清潔にしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排便確認とケアチェック表の活用</li> <li>・個々の排便習慣の声かけ。</li> <li>・水分補給に配慮</li> </ul>		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調等を観て、希望に応じて入浴出来るようにしている。	週4回の入浴日を設定していますが、希望があればいつでも入浴できます。利用者は、週2～3回入浴しています。入浴ができない方には清拭やシャワー、下着の着替えなどで対応をしています。	今後、利用者が入浴をされない場合は、拒否された理由や着替え・足浴などの補完を記録されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	・なるべく日中ホールで過ごせる よう室内で出来る事を一緒にし ている。 ・昼食後は自室で休息、仮眠など 、自由に過ごし、生活に変化をつ ける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	・処方箋で内容を確認している。 不明な点は医師や看護師が説明 。 ・個別の服薬確認と援助をしてい る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	本人が出来ること、したいこと と一緒に（家事など）していただき 、気分転換出来るように支援し ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かけられ るように支援している	・散歩を兼ねて施設周辺の花を 観に出かける。 ・家族の協力を得て、買物や外 食で少し遠くに外出している。	天気のいい日には散歩に出かけ たり、施設周辺の草とりをして います。リフト付きバスで車い すの利用者もスーパーへ買い物 に出かけています。家族の訪問 も多く、家族と一緒に外出する 場合もあります。系列の施設や 大学のイベントには、利用者や 家族の席を確保してもらった上 で参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて、お小遣いを持っていただくが、家族からお金を預かり、いつでも使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも電話ができるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境整備に心がけている</li> <li>・季節感、生活感が感じられるように、心がけている。</li> <li>・室内の飾り、絵等も季節毎に変えて楽しんでいる。</li> </ul>	広いリビングは、大きな窓で陽あたりがよく、四季の移り変わりがよく見えます。窓際にはソファを置き、利用者がくつろげるようにしています。陽あたり具合や、気分転換を兼ねて、季節毎にソファの位置を替えています。壁には写真を飾り、思い出を楽しんでいます。感染症予防や快適な暮らしのために、利用者の清潔にも気をつけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を季節や状況に応じて配置、思い思いに過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で慣れ親しんだ物を持ち込んで、使っている。	利用者が以前使っていた馴染みの家具や、大切にしている家族の写真等を持ち込み、その人らしい居室作りを工夫しています。着替えの順番がわからなくなっても大丈夫のように、家族が作成した着替えの順番を書いたイラストボードを飾っている利用者がいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの状態にあった役割を、声かけと見守りで支援している。</li> <li>自分で出来ること、やりたいと思うことができ、安心・安全に自立した生活できるようにしている。</li> </ul>		